



心突き動かす、心に刻み込む。 じっちゃけプルトラ!

会員 秋葉 浩子 (73 期)

1 ある研修受講者(架空)の手記

その日は清々しいほどの快晴だった。10分ほど前までは、研修を指導する弁護士が、会議室前方のスクリーンに映し出された研修スライドを示しながら、裁判例や実際の対応におけるポイントについて解説していた。基礎知識の解説パートが終わり、今まさに学んだ知識をもとに、他の受講者とともにグループワーク課題に取り組んでいたところ、指導弁護士から、グループワーク課題の追加設問の1つとして、研修実施協力者である同僚社員2名による芝居を見て、実際の対応における問題点を検討するよう指示があった。対応が難しい案件に関する研修である。実際の案件でも学んだことを活かせるよう、集中して学ばなければ。自分と同じような気持ちで受講しているであろう周囲の受講者も、真剣に当該同僚社員2名を注視しており、あたりには緊張感が漂っていた。

芝居の途中、役を演じている同僚社員の1人が「何だったかな。私も当時酔っていて、Aさんの発言内容をよく覚えてなくて。1、2とか急に数を数え始めて、その後何か叫んでいたような」と困った表情を浮かべた。すると、芝居の冒頭から魂を込めた演技をしていた、もう1人の同僚社員が、おもむろに口を開き、言葉を放った。「もしやAさんはこう仰ったのではないですか。元気があれば何でもできる。1…2…3…! ダーッ!!!」

響き渡る声に、一瞬、静まり返る会議室。その一瞬の後、会議室には、笑いを堪えきれなかった自分と仲間たちの姿があった。

2 ある73期(実在)の弁解

「一体、自分は東京弁護士会が発行するLIBRAで何を読まされているのか」と困惑された方がいらっしゃるかもしれないが、ここまで読んで下さったのであれば、もう少しだけお付き合いいただけると大変

嬉しい。

上記手記は、実際に私が弁護士として実施した、ある企業における研修の内容や、研修後のアンケート結果をもとに、架空の「ある研修受講者」になりきり、心情面のみ、創作したものである。つまり、同研修中、心優しい研修実施協力者2名に演技をしていただき、途中、大変有名な上記台詞を大声で発してもらったシーンがあったということである（なお、ここだけを切り取ってお伝えすると、ふざけた研修を実施したのではないかと誤解されるおそれ大いにあるところ、複数名の大変良識のある関係者（ベテラン弁護士を含む）に予め台本をご確認いただき、当該台詞を入れた理由についてもお伝えしたうえで、研修を実施したという点につき念のため、ここで付言する）。

実は、社内研修の内容を検討し始めた初期の段階から、研修実施協力者に当該台詞を発してもらおうと思っていた。学ぶ過程はなるべく楽しくした方が、受講者の心を動かし、その心に残る研修となると考えたからである。

3 まとめ

残念ながら、私と「あなた」は別個体であるため、私が伝えたいことが正確には「あなた」には伝わっていないかもしれない。それでも、伝える努力は今後もしていきたいし、単に伝わるということを超えて、楽しく伝わったのなら、欲を言えば、「あなた」の心突き動かす、心に刻み込む何かが伝わったのなら、それは私にとってとても幸せな経験になる気がする。じっちゃんの名にかけて、Plus Ultra!

*タイトル中の「じっちゃけ（じっちゃんの名にかけて）」「プルトラ（「Plus Ultra」（さらに向こうへ）」）は、週刊少年ジャンプ連載コミック『僕とロボコ』に登場する造語です。